

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 78人

② 算数 78人

5 留意事項

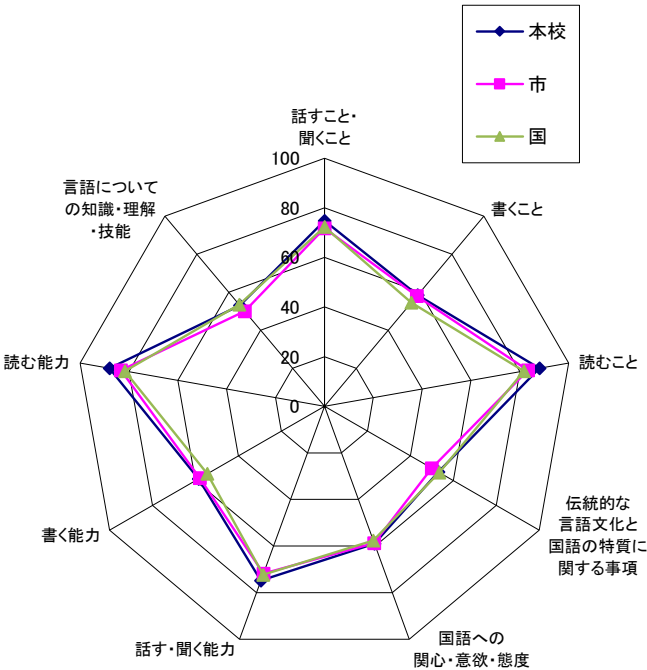
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.8	71.8	72.3
	書くこと	58.5	58.0	54.5
	読むこと	88.0	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	53.1	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	59.0	58.7	57.6
	話す・聞く能力	74.8	71.8	72.3
	書く能力	58.5	58.0	54.5
	読む能力	88.0	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	53.1	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し手の意図を捉えながら聞くこと」「話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をすること」「目的に応じて質問すること」は、県平均より5ポイント以上高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・一人一人が話す時間を確保し、話の中心を明確にした話し方、相手の考えを受けての受け答え等その時々でめあてをもって話すようにさせる。
書くこと	○書くことの平均正答率は58.5%で、県の平均より4ポイント高かった。特に、「情報を相手にわかりやすくするための記述の仕方の工夫」については県平均より8ポイント高かった。 ●「自分の考えの理由を明確にし、表現の仕方や字数等の条件に合わせて書くこと」ができた児童は29.5%で約70%の児童は身に付いていない。	・書く目的や相手に伝えたい事を明確にした上で、段落や字数などの条件に合わせて書く学習を意図的に行う。また、国語の時間だけでなく他教科の学習においても字数や表現方法に条件を出すなどして条件に合った文を書く機会を設け、書く力の養成を図る。
読むこと	○読むことに関する3つの設問のすべてが約85%以上の正答率であり、いずれも県平均より5ポイント以上高かった。	・目的に応じて文章の内容を的確に捉え自分の考えを明確にしながら読むことにおいては定着している児童が多い。今後は、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えることや、事実と感想、意見などとの関係を押え、自分の考えを明確にしながら読むことを書くことと併せて指導するようにする。

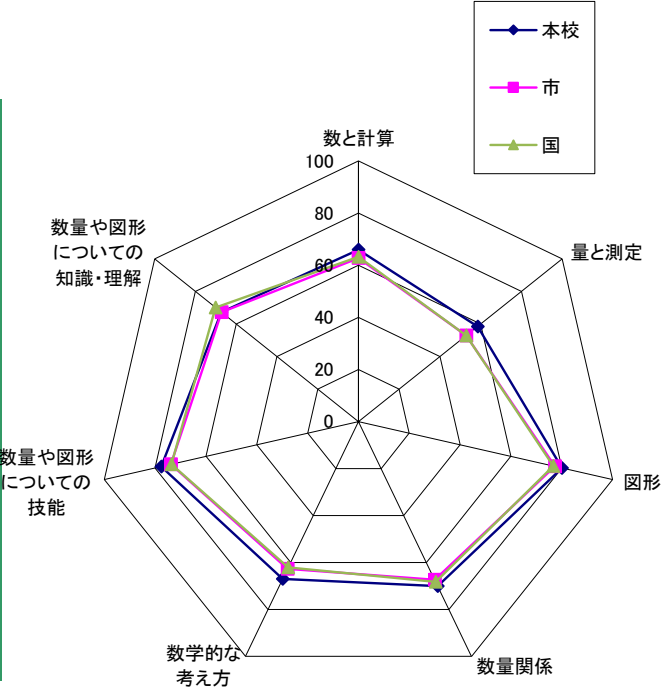
伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	○ことわざ「習うより慣れろ」の使い方については、70%以上の児童が正しく選択できた。 ●漢字を文中で正しく使うことに関する設問では3問中1問だけが約80%の正答率で、調査のたいしょう、かんしんをもつ、については、それぞれ42.3%、28.2%と、50%を切る正答率であった ●文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を正しく分けることができた児童は42.3%で、全国平均より5.5ポイント低かった。また、無回答率も17.9%と高く、接続詞を使うことに課題がある。	・同音異義の漢字について、調べるなどして意味を理解させるとともに、短作文作りで使い方も身に付けられるようにする。また、普段から分からない漢字は調べて使う習慣を身に付ける。 ・文章の推敲の際、適切な接続語を使っているかを確認したり、一文が長い場合は、接続語を使って短くできないかを考えさせたりする。また、説明文の学習で、接続語の役割や使い方を意識しながら文章を読むようにする。
---------------------------------------	---	---

宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	65.9	62.7	63.2
	量と測定	58.5	52.9	52.9
	図形	80.1	77.3	76.7
	数量関係	70.1	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	67.0	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	77.6	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	67.3	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○ $359-97$ を $362-100$ と計算しても答えは同じになると正しく答えられた児童は89.7%で、全国平均より7.9ポイント高かった。また、その説明を理解し、除法に当てはめて正しく説明できた児童の割合は42.3%で、全国平均より11.2ポイント高かった。 ● $180\div0.6$ を $1800\div6$ としても答えが同じになることを具体的な場面に当てはめて考えることができた児童の割合は41%で、全国平均を6ポイント低かった。	・問題を図や数直線など具体的に表す学習を多く取り入れ、低学年から積み重ねていく。
量と測定	○示された複合図形の面積を求める式から求め方を解釈し、言葉や式で説明する設問の正答率は56.4%で、全国平均の43.9%より12.5ポイント高かった。	・式を読み取ったり、それを使って問題を解いたりする学習を多く取り入れることで、いろいろな考え方を身に付けられるようにする。
図形	○台形の性質についてはほとんどの児童がよく理解しており、合同な2枚の台形からできた図形を全て正しく選ぶことができた児童の割合も全国平均より12.5ポイント高かった。しかし、40%ほどの児童は、すべての図形を選ぶことができなかった。	・図形に対する感覚を豊かにするために、色板並べやパズル等学年の発達段階に合わせた学習を適宜取り入れる。
数量関係	○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る設問についての正答率は80%以上で、多くの児童が身に付いているといえる。	・多くの問題や発展的な問題に取り組ませることで、更に力を高めたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

1学習について 「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる」と答えた児童が85%程いる。主に算数や国語の授業において自ら考える時間を確保し、交流をしながら解決に向かうということを継続的にやってきた成果でもあるといえる。一方で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表できたと思う児童は60%程にとどまったことから、今後は、考えるだけでなく、発表する際の手立てを示し、実践していくことが大切だと考える。
2学校での学習について 「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができていると思うか」や「話し合いを生かして自分の努力すべき点を決めて取り組んでいると思うか」について、肯定的に答えた児童は83.5%(+9.4)、78.4%(+5.0)と全国平均より高かった。他の設問からも話し合い活動が学習などに生かされていることが分かる。また、「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したか。」については、ほぼ毎日または週1回以上と答えた児童が65%程おり、全国の平均の2倍程度に値する。実物投影機を使い、児童の考えを説明する際に活用することや、漢字の筆順ソフトを使って学ぶこと、デジタル教科書を使うことなどを通して子供たちの理解を深めるために役立っていると思われる。更にノートの取り方については、国語や算数の双方において、授業中のノートを分かりやすくまとめたり、理由も考えながら詳しく書いたりしている児童が85%よりも多く、ノートの書き方がしっかりと身に付いているといえる。年度初めにノートの書き方の確認をしたり、随時友達とノートを見せ合い良いところを学び合う機会があるからだと考え
3家庭学習について 「家で自分で計画を立てて勉強しているか。」について、肯定的割合が80%を超え、全国の割合よりも10%も多い。家庭学習の内容において、学年が上がっても宿題と自主学習と音読という大まかな内容は変わらないので、見通しをもって取り組むことにつながっていると考える。また、毎月学習カレンダーにおいて学習に取り組み始める時間も決めているので、一人一人が意識して取り組めている。
4生活習慣について 毎日同じ時刻に起きたり寝たりする児童が多い反面、ときどき寝たり起きたりすることが遅くなったりする児童も全国平均に比べ少し多いので、規則正しい生活が継続できるよう、教育相談等を活用し、振り返る時間を適宜作っていきたい。
5自分について 自分にはよいところがあると考えている児童は80%を超え、多くの児童が自分の長所を自覚していることが分かる。教員がよいところをほめてくれるという肯定的な回答も多いところから、よいところは褒めて伸ばすということを教員側が続けていく必要がある。ただ、よいところはないと答えている児童も9%ほどいるので、その児童のよいところや活躍が見られた場面などで褒め、自信がもてるようにしたい。

宇都宮市立築瀬小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・漢字、計算力等、基礎力の向上 ・自分の考えや文、式、資料から読み取ったことを表したり説明したりする力 ・個人差への対応	・前学年までの漢字についても復習できるような工夫、少人数指導やコース別学習など個別指導の工夫、家庭学習の勧め等 ・教科の学習中だけでなく、朝・帰りの会や、日記指導、様々な行事の後など、機会をとらえて話す・書く機会を多く取り入れる。	・漢字、計算、国語における書く領域についての調査結果は向上してきた。しかし、漢字では「書く」ことの正答率が70%前後で県平均を5ポイント以上低いものがあり、計算においては、整数と小数の加法・減法の正答率が65%前後と十分身に付いたとは言えない。 ・記述式の設問の正答率は、他の設問に比べ、どの教科も低めであった。特に、字数や段落に制限がある設問の正答率は低く、県の平均を大きく下回るものもあり、さらに継続した指導が必要である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えや読み取ったことを文章で表したり、説明したりする力の向上	・字数や段落等、表し方の条件に合うよう文章で表したり説明したりできるようにする。	・国語の読み取りの学習の中で、字数を意識させる確に読み取る学習をし、読み取ったことを字数や段落など条件を与えてまとめる学習をする。 ・算数の学習の中では、自分の考えを書かせる際、他の人にもわかるように短く順序立てて書くことを意識させるようにする。 ・他の書く場合や、話す場合にも、伝えたいことの内容を明確にした上で表現するよう意識させる。 ・教科に係わらず自分の書いたものを見直す習慣を身に付ける。